

エコアクション21

環境経営レポート

活動期間：2024年4月～2025年3月

2024年度



千葉スバル株式会社

発行日：2025年06月30日

目次

1. 会社概要	3
2. 環境経営方針	6
3. 環境経営目標	7
4. 環境経営の成果	8
5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価	9
6. 環境改善活動・社会貢献活動	10
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	12
8. 代表者による評価と見直し	12
9. 経営におけるチャンスと課題	12
10.次年度以降の環境経営目標	13

1. 会社概要

(1) 事業所名

千葉スバル株式会社

(2) 所在地

千葉県千葉市美浜区新港176-2

※ 店舗については(8)『EA21対象店舗一覧』を参照



(3) 代表者氏名

代表取締役社長 中島 明

(4) 環境管理責任者及びE A 2 1事務局連絡先

環境管理責任者
推進事務局

取締役(兼)最高執行責任者(兼)最高総務責任者
総務部 部長
総務部 人事教育課 課長
総務部 施設・IT課 課長
営業促進部 促進課 課長
サービス部品部 サービス技術課 課長
総務部 人事教育課
営業促進部 バリューチェーン推進課

辻 正道
我妻 貴臣
高橋 克徳
友利 和正
菅谷 雄介
岡本 武司
蜂須賀 冬馬
小高 竜晟

連絡先 電話 043-243-2261
FAX 043-203-0120
URL <http://www.chibasubaru.com/>

(5) 事業の内容

新車・中古車の販売
部品・用品の販売
点検・整備

钣金塗装
自動車リース
損害保険代理店業務

(6) 事業の規模

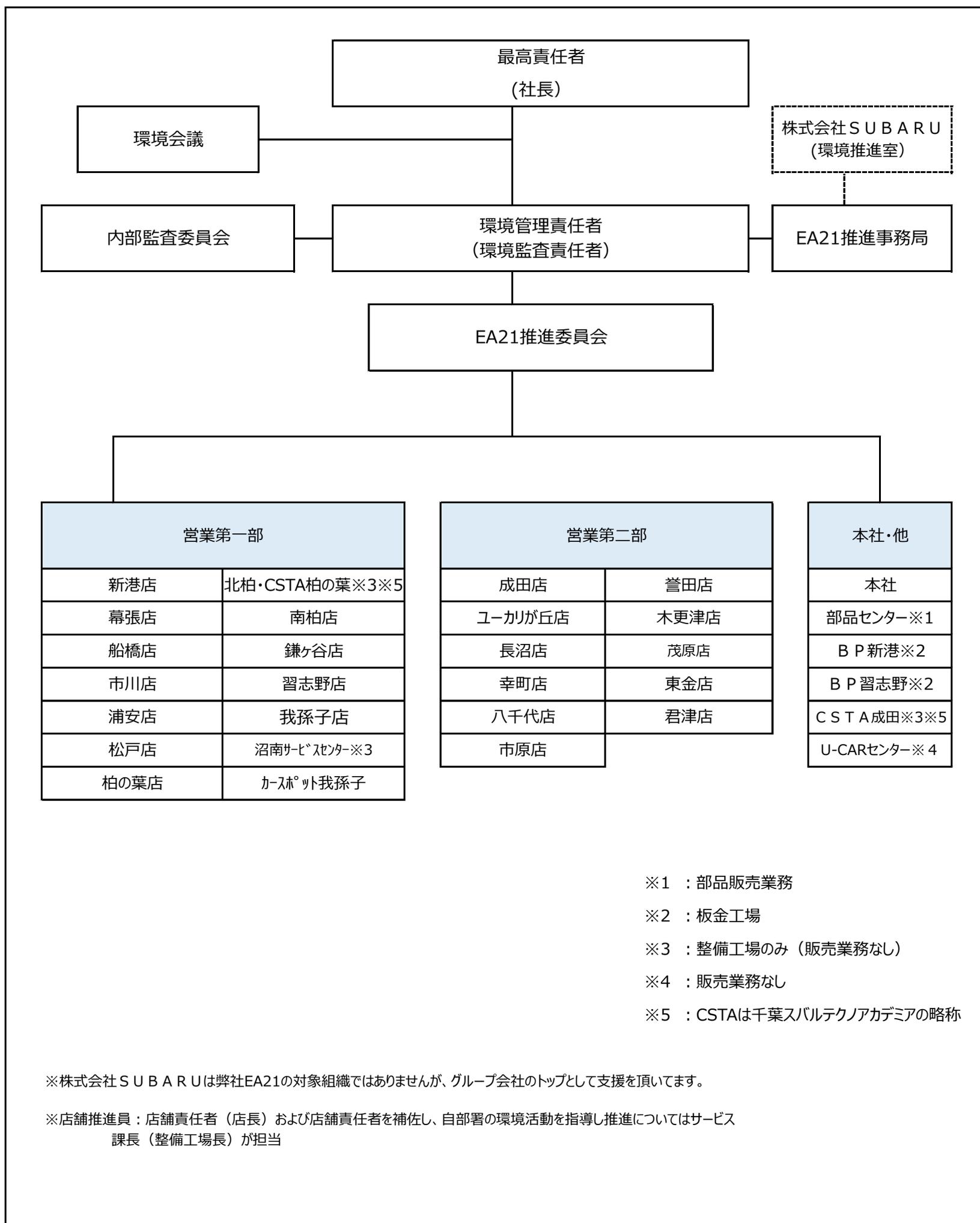
・売上高	324.56億円(2024年度)
・新車販売台数	5,146台(2024年度)
・中古車販売台数	1,791台(2024年度)
・社員数(パート含む)	536名(2025年3月末現在)
・店舗数	本社 1
	新車販売 20
	中古車販売 4
	その他 4

※(1)～(5)は2025年6月30日現在

※(6)は2025年3月31日現在

(7) EA21推進組織図

※ 千葉スバル株式会社は全事業所・全部門にて
エコアクション21に取り組んでいます。



2025年3月末現在

(8) EA21対象店舗一覧

千葉スバル株式会社は全組織・全活動を対象としてエコアクション21に取り組んでいます。

事業所名	郵便番号	住所	責任者	電話番号	FAX番号	面積(坪)		工場 資格	正社員				非正規	総合計	組織区分	
						土地	建物		セールス	メカニック	その他	総数				
1 本社(部品センター含む)	261-0002	千葉市美浜区新港176-2	我妻 貴臣	043-243-2261	043-203-0120	2503.4	1040.1	-	6		91	97	6	103	A	
2 新港店			平野 敦史	043-242-5111	043-238-1350			指定	9	10	10	29	3	32	C	
3 B P新港			池田 公紀		043-238-1351					6	2	8		8	E	
4 幸町店	261-0001	千葉市美浜区幸町2-20-31	中野 英幸	043-243-1321	043-243-2625	752.9	222.0	-	2		1	3		3	B	
5 幕張店	262-0032	千葉市花見川区幕張町5-417-354	下川 久幸	043-213-3800	043-213-3805	1000.1	315.8	指定	5	5	5	15	1	16	C	
6 松戸店	271-0053	松戸市中根156-1	小野寺 猛	047-363-6111	047-330-1187	998.8	505.4	指定	7	7	6	20	1	21	C	
7 柏の葉店	277-0814	柏市正連寺406-3中央134街区4	神谷 剛	04-7133-7231	04-7140-8054	925.3	574.8	指定	9	8	7	24		24	C	
8 南柏店	277-0856	柏市新富町1-1-11	高橋 誠	04-7147-5900	04-7147-5905	930.2	366.6	指定	5	5	6	16	1	17	C	
9 我孫子店	270-1152	我孫子市寿2-25-47	渡邊 正洋	04-7185-5050	04-7181-1137	316.7	121.2	-	4	1	4	9	1	10	C	
10 沼南サービスセンター	277-0922	柏市大島田127	久保田 治	04-7193-3700	04-7193-3710	222.6	120.8	指定		4	1	5	1	6	D	
11 カースポット我孫子	270-1177	我孫子市柴崎34-2	押切 裕之	04-7183-0611	04-7183-7282	1008.2	60.5	認証	2	1	2	5		5	C	
12 市川店	272-0015	市川市鬼高4-7-5	北浦 慶太	047-378-1261	047-320-3241	1394.6	835.9	指定	9	8	9	26	1	27	C	
13 浦安店	279-0002	浦安市北栄4-20-8	角谷 伸宏	047-353-2111	047-390-6450	435.3	214.2	指定	5	5	5	15		15	C	
14 船橋店	273-0001	船橋市市場2-9-19	谷 勇輝	047-423-6631	047-426-8320	657.8	196.9	指定	7	6	6	19	1	20	C	
15 鎌ヶ谷店	273-0115	鎌ヶ谷市東道野辺5-9-19	鈴木 基博	047-442-1211	047-498-5055	1075.0	524.6	指定	6	5	5	16	1	17	C	
16 習志野店	275-0001	習志野市東習志野6-16-43	菊地 猛	047-473-2171	047-470-1455	999.2	428.9	指定	6	6	7	19	1	20	C	
17 B P習志野			佐藤 剛							6	1	7	1	8	E	
18 八千代店	276-0036	八千代市高津東4-7-11	玉垣 貴宏	047-487-0486	047-487-0520	608.0	55.7	認証	2	1	2	5	1	6	C	
19 市原店	290-0050	市原市更級2-3-1	大関 貴弘	0436-37-1221	0436-20-1121	1323.6	446.5	指定	7	6	5	18	3	21	C	
20 木更津店	292-0014	木更津市高柳952	鈴木 武徳	0438-23-0321	0438-20-1039	673.2	224.7	指定	5	4	5	14	1	15	C	
21 君津店	299-1163	君津市壺師4-2-7	鎌田 孝一	0439-55-7200	0439-50-1288	485.4	126.8	指定	4	4	3	11	2	13	C	
22 茂原店	297-0074	茂原市小林1732	伊沢 太郎	0475-22-5271	0475-20-1090	632.2	136.1	指定	5	5	5	15	1	16	C	
23 東金店	289-1327	山武市姫島141-1	廣田 芳和	0475-82-7221	0475-80-1005	591.4	156.5	指定	5	4	5	14	1	15	C	
24 長沼店	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町725	戸井 義人	043-250-3791	043-298-9045	964.7	342.1	指定	5	5	5	15	1	16	C	
25 ユーカリが丘店	285-0850	佐倉市西ユ-カリが丘6-3-5	松崎 陽祐	043-462-5500	043-460-1575	826.3	773.9	指定	8	6	5	19	1	20	C	
26 成田店	286-0221	富里市七栄525-1	川崎 一幸	0476-37-3250	0476-37-3251	1478.3	849.1	指定	9	8	9	26	1	27	C	
27 誉田店	266-0005	千葉市緑区誉田町1-392-3	名塚 勝芳	043-292-6601	043-226-9032	429.1	147.7	指定	5	4	5	14	2	16	C	
28 北柏店 CSTA柏の葉	277-0871	柏市若柴91-16	小林 満	04-7199-7007	04-7199-7027	600.4	230.5	認証	2	4	3	9		9	C	
29 CSTA成田	286-0046	成田市飯仲11-31	太田 陽	0476-36-8220	0476-36-8344	1030.3	244.1	認証		4	3	7		7	D	
									総合計	139	138	223	500	33	533	

※社員数は2025年6月末現在

組織区分の意味

- A = オフィス業務(事務所業務)
- B = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車)
- C = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車) + 整備業務
- D = オフィス業務 + 整備業務
- E = オフィス業務 + 钣金塗装

(9) 「認証登録の範囲(組織・活動)」

認証・登録番号：0006212

認証・登録年月日：2010年11月18日

認証・登録事業者名：千葉スバル株式会社

対象事業所名：(8)「EA21対象店舗一覧」を参照

所在地：千葉県千葉市美浜区新港176-2

事業活動内容：新車・中古車の販売、部品・用品の販売、点検・整備、钣金塗装、自動車リース、損害保険代理店業務

2. 環境経営方針

環境経営方針

《基本理念》

私たちはSUBARUが持つ価値を当社に関わる全ての方に提供することで豊かな社会を作りたいと考えます。そのために欠かせない環境負荷軽減活動に全社員で取り組み、企業価値を上げることで愛される千葉スバルを目指します。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行う自動車及び部品の販売、サービス・保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO₂削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 環境に配慮した自動車（新車・U-car）販売と、良質なサービスを提供する事で環境負荷の低減を進めます。
5. この環境方針を全社員に周知し、教育活動を推進します。

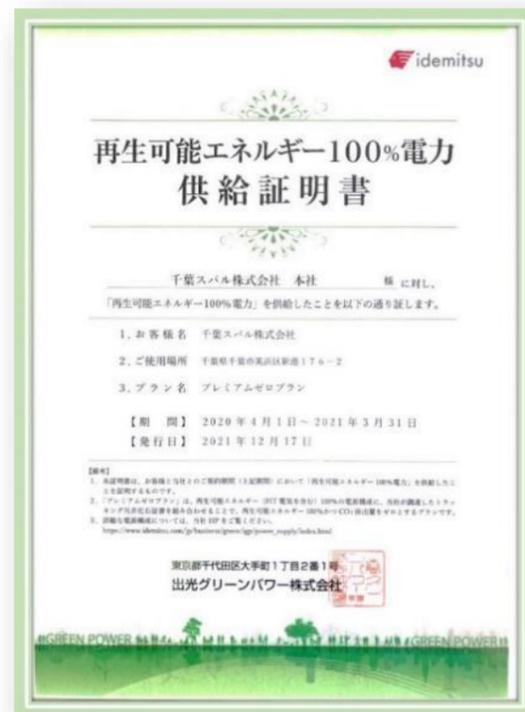
2010年4月1日 制定
(2024年4月1日 改訂)
千葉スバル株式会社
代表取締役社長 中島 明

3. 環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(1) 環境負荷状況

項目		年度	単位	2024年実績
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量		kWh	2,821,015
	CO2排出量		kg-CO2	0.00
	ガソリン		L	88,872.7
	CO2排出量		kg-CO2	206,185
	灯油		L	
	CO2排出量		kg-CO2	0
	軽油		L	41,665
	CO2排出量		kg-CO2	107,497
LPG			kg	16,945
	CO2排出量		kg-CO2	50,836
都市ガス			m ³	216,342
	CO2排出量		kg-CO2	467,299
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】			kg-CO2	831,816
②水使用量の削減			m ³	15,970
③産業廃棄物排出量の削減			t	398.1
④事業における環境配慮推進				
a) 車検カバー率			%	69.6
b) IoT化販売促進 ※新車装着含まず			本数	16,020
c) 環境に配慮した車両 (HV,EV)の販売促進			台数	1,968



【CO2排出係数/調整後係数】
 【電気】0kg-CO2/kWh (プレミアムゼロプラン) 2019年度より導入
 【ガソリン】2.32 kg-CO2/kL・【灯油】2.49 kg-CO2
 【軽油】2.58 kg-CO2/L
 【LPG】1.61 kg-CO2/k g ・【都市ガス】2.23 kg CO2/m3
 ※排出係数は基準年度と同係数で統一

※化学物質は維持管理を実施している。

(2) 環境経営目標

項目		年度	単位	2023年度実績	2023年目標基準	2024年度目標	2025年度目標
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量		kWh	2,704,045	店舗の傾向により目標を設定	2,744,147	2,792,805
	CO2排出量		kg-CO2	0.00		0.00	
	ガソリン		L	76,590		79,016	
	CO2排出量		kg-CO2	177,689		183,317	
	灯油		L			0	
	CO2排出量		kg-CO2	0		0	
	軽油		L	44,643		36,666	
	CO2排出量		kg-CO2	115,178		94,597	
LPG			kg	15,330	13,931		
	CO2排出量		kg-CO2	24,680	22,428		
都市ガス			m ³	203,507	189,882		
	CO2排出量		kg-CO2	453,821	423,438		
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】			kg-CO2	771,617	724,459	823,497	
②水使用量の削減			m ³	16,765		17,017	15,810
③産業廃棄物排出量の削減			t	321.1		940.0	394
④ 環境業配に おける 推進	a) 車検カバー率		%	70.1	店舗実績毎に設定	80.0	80.0
	b) IoT化販売促進 ※新車装着含まず		本	15,331		20,000	20,000
	c) e-BOXER搭載車(HV) 及びEVの販売促進		台	1,573	-	1,810	1,810

※2024年度目標については前年実績をベースに店舗の傾向別に目標設定し取組む。

※④ C)については、2019年・2020年・2021年：e-Boxer搭載車の販売促進/2022年・2023年：e-BOXER搭載車及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

4. 環境経営の成果

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

※項目①②③は目標比とし90.0%以下は“◎”、95.0%以下は“○”、100.0%以下は“△”それ以外は×とする。

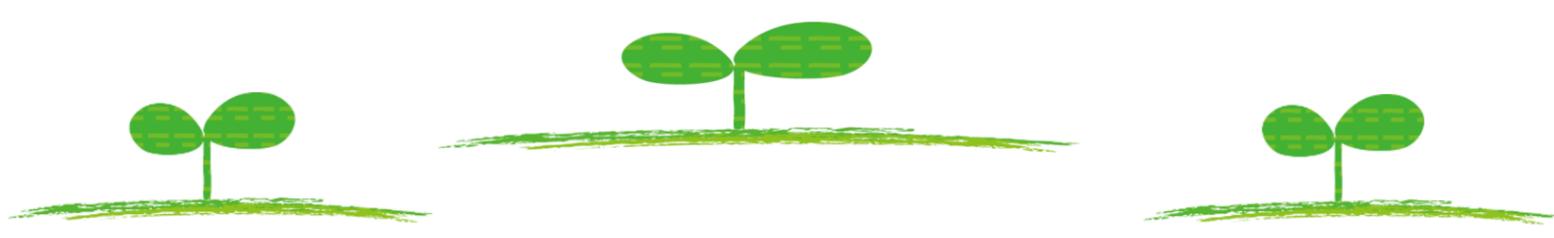
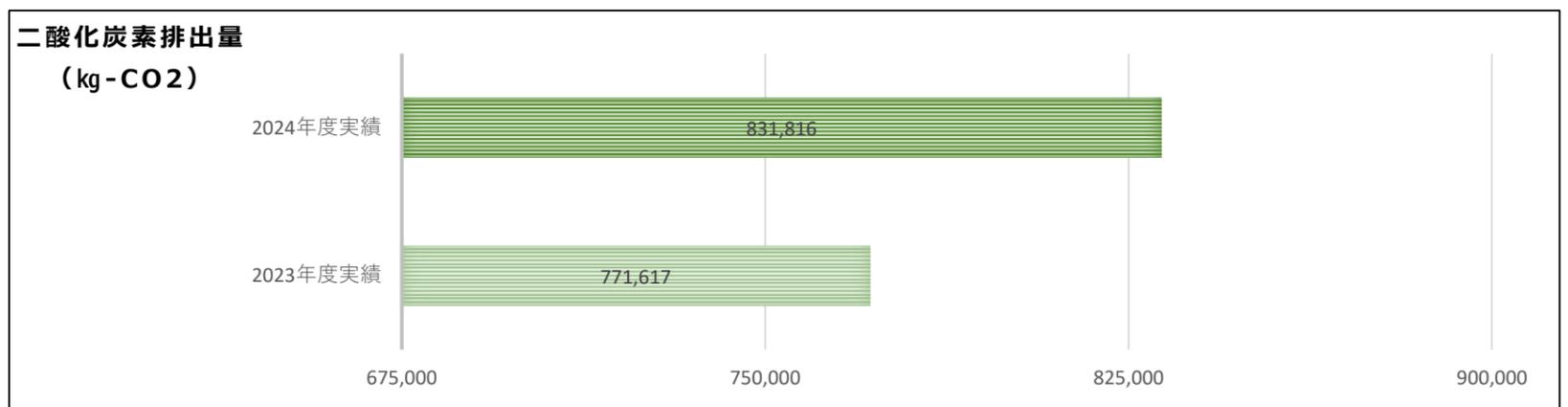
(1) 環境負荷実績 ※項目④は達成率とし◎110%以上達成、○100%以上達成、△95%以上で少々未達、×94%以下で未達

項目	年度	単位	2023年度実績	2024年目標	2022年度 実績比率	2024年度の環境負荷の状況		
						2024年度実績	対目標比率&判定	
① 二酸化炭素 排出量の 削減	電気使用量	kWh	2,704,045	2,744,147	101.5%	2,821,015	102.8%	×
	CO2排出量	kg-CO2	0	0		0		
	ガソリン	L	76,590	79,016	103.2%	88,873	112.5%	×
	CO2排出量	kg-CO2	177,689	220,884		206,185		
	灯油	L						
	CO2排出量	kg-CO2						
	軽油	L	44,643	36,666	82.1%	41,665	113.6%	×
CO2排出量	kg-CO2	115,178	94,597		107,497			
LPG	kg	15,330	12,391	80.8%	16,945	136.8%	×	
CO2排出量	kg-CO2	24,680	22,428		50,836			
都市ガス	m ³	203,507	189,882	93.3%	216,342	113.9%	×	
CO2排出量	kg-CO2	453,821	423,438		467,299			
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】		kg-CO2	771,617	724,459	93.9%	831,816	114.8%	×
②水使用量の削減		m ³	16,765	17,017	101.5%	15,970	93.8%	○
③産業廃棄物排出量の削減		t	321	940	292.7%	398.1	42.4%	◎
④ 環境業 配に 慮お 推し 進	a) 車検カバー率	%	70.1	80.0	114.1%	69.6	87.0%	×
	b) IoT販売促進 ※新車装着含まず	本	15,331	20,000	130.5%	16,020	80.1%	×
	c) e-BOXER搭載車(HV) 及びEVの販売促進	台	1,573	1,810	115.1%	1,968	108.7%	○

※④ C)についてはe-BOXER搭載車及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

(2) 千葉スバルのCO2総排出量推移



5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価

項目	活動内容	評価及び今後の取組	
① 二酸化炭素排出量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化	<p>評価：2024年度のCO2排出量は昨年度より増加、目標値を大きく上回る結果となった。要因としては事業活動が昨年度に引き続き好調を維持した事で、ガソリン使用量が増加した。また気候変動要因により空調機器の使用期間が増えた事で、主燃料である都市ガスやLPGの使用量が増加した事が主な要因。一方で積載車の運用を見直したことで効率化が図れ軽油使用量は減少に転じた。</p> <p>今後：試乗車や社用車のHEVやEV化を推し進める。また老朽化した空調機器やロールスクリーン等を、より省エネ性能や断熱性能を持つ器具に更新を進めていく。またスタッフのクールビズ・ウォームビズ活動の継続を図る。これらの取り組みを進めることで事業活動の成長とCO2削減の両立を図りたい。</p>	
電気使用量の削減	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入（LED化等） 3) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月） 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化	<p>評価：前年比では4.3%増、目標比2.8%増の結果であった。要因としては気候変動による空調機器の使用期間の増加が考えられる。またスタッフの節電への意識不足から無駄な使用がされていることと思われる。一方でLED照明への更新を進めたことで、スタッフは基よりお客様に対しても一定の環境活動を浸透させることが出来た。</p> <p>今後：昨年に引き続きLED照明への更新に加え、人感センサー付き照明や、省エネタイプの空調機器、空調デマンド監視機能の導入を進めることで、使用量の削減、及び使用の効率化を進めていく。同様にスタッフに電気使用量の見える化をよりわかりやすく進めることでコミュニケーションの質を改善。全体的な節電意識向上を目指す。</p>	
燃料使用量の削減	1) 効率的な燃料(ガソリン、軽油)の使用 2) 来店型店舗の推進(ガソリン、軽油) 3) エコ運転の推進(ガソリン、軽油) 4) 冷暖房の室温管理（都市ガス） 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用(都市ガス、LPG) 6) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月）	<p>評価：都市ガス、LPG、ガソリンは前年度越え、軽油については前年を下回ったが目標には未達だった。特に顕著な値となったのがLPGとガソリンでありこれは、LPG：板金作業の使用量増加、ガソリン：事業活動の好調が要因と考えられる。軽油は積載車の店舗配置を集約した事が稼働効率の向上につながり削減につながった。</p> <p>今後：板金修理は市場環境の変化から今後も増加傾向になると見込まれるので、店舗設備を最新機器に更新、事業性と環境面への配慮の両立を図る。都市ガスは主に空調機器での利用のため、機器の更新や環境教育の充実を図る。ガソリン・軽油は社用車の運用や配送ルートの見直しを逐一図り効率的な使用ができるように改善していく。</p>	
② 水使用量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化	<p>評価：水使用量は昨年度・目標値ともに下回る実績。事業活動の見直しとして行った、洗車サービスの改善により洗車回数が削減、また新車時のボディコーティング施工率上昇により洗車時間の短縮が要因と考えられる。近年の渇水問題からスタッフ全員の節水への意識向上も寄与している。</p> <p>今後：水資源削減の為に、節水型の洗車機や高圧洗浄機の設備投資計画を進める。そして引き続き社員教育も進め全社員の節水意識の向上を図ります。</p>	
③ 産業廃棄物の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) マニフェスト管理台帳による日々の数量管理 3) 不必要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化	<p>評価：事業活動の拡大（板金修理依頼増加）に比例して昨年度より排出量が増加した。車両サイズの拡大やAssy部品の増加に伴い廃棄量が今後も増加する事が予測される。</p> <p>今後：廃棄物処理の際の適切な分別や普段の定期清掃などを心がけ、事業活動に応じて増加する排出量への対策とする。また昨年同様、産業廃棄物適正処理管理士3級資格を新たな管理者に取得させて、コンプライアンスの醸成を図る。</p>	
④ 化学物質の管理推進	1) 法規制、社内基準の順守 2) シンナー、ラッカー等の必要以上の使用を削減 3) 含有材料の適正在庫の徹底 4) 事務局主体による啓発活動の強化	<p>評価と今後：車両の複雑化などにより、板金修理事業は専門知識を有する正規ディーラーの利用が増え今後も拡大することが予想される。そのため適正な化学物質管理や社員の健康管理および工場美化・認証要求事項改善などを今後も推進していく。</p>	
⑤ 事業における環境配慮	a) 車検カバー率	1) 6か月毎の点検入庫促進活動の強化 2) 環境性能の高い車種への代替提案 3) 環境配慮した良質な整備作業の提供	<p>評価と今後：車検カバー率は前年実績をわずかに下回る結果となった。他銘柄への乗換えや他社（ガソリンスタンド等）の利用が考えられる。専用アプリ（マイスバル）の活用を増加させる事で顧客利便性を向上させて、環境に配慮したサービスを提供できるようにする。</p>
	b) エコタイヤ販売推進	1) 点検入庫機会を活用した付加価値提案（エコタイヤ）	<p>評価と今後：車両販売員向けにタイヤ性能を体感できる学習機会を設けたことで、知識量が向上、店舗スタッフ全員で付加価値提案を行なった事が増加につながったと考える。次年度もこの活動を継続していく。</p>
	c) 環境性能エンジン『e-BOXER』の販売促進	1) 環境性能エンジン『e-BOXER』販売促進により環境負荷削減	<p>評価：従来より、環境性能が大きく向上したストロングハイブリッド車が市場から好評で事業性との両立に大きく寄与した。</p> <p>今後：お客様とのコミュニケーション機会を増やし、顧客ニーズをより理解していくことで、環境性能に特化した商品の提案活動を継続していく。</p>

6-1. 環境改善活動

2024年度も省エネ化及び働きやすい環境づくりを進めることができました



防災・環境保全への取り組み：茂原店へ「止水板」を設置

BCP対策および環境リスク管理の一環として、茂原店に止水板を設置いたしました。当社店舗への止水板導入は今回が初の試みとなります。

【設置の背景と目的】茂原店では過去2度にわたり台風による浸水被害を経験しております。こうした風水害に対し、建物や設備の損害を最小限に抑えるとともに、サービス工場からのオイル流出による二次被害（環境汚染）を未然に防ぐことを目的としました。

【設置概要と運用体制】

設備面：店舗およびサービス工場の全出入口に、高さ60cmの止水板を配備。（茂原市「止水対策補助金」活用）

運用面：全社員を対象とした使用方法の研修を実施。あわせて「緊急事態訓練」においても止水板の設置手順を確認し、迅速な初動対応が可能な体制を整えました。

今回の設置と訓練を通じて、災害時のリスク軽減を図るとともに、地域環境に配慮した安心・安全な店舗運営を継続してまいります。

省エネルギー推進に向けショールームへの遮熱・遮光フィルム導入

環境負荷低減および省エネルギー対策の一環として、直射日光の影響を受けやすい店舗のショールーム窓面に、遮熱・遮光フィルムの施工を実施いたしました。

【施工対象店舗】松戸店、南柏店、鎌ヶ谷店、北柏店、八千代店

【導入の成果】事前の性能測定において、未施工時と比較し最大で7.4℃の温度低減効果を確認いたしました。この施工により、夏季の室温上昇を抑制し、空調機器の運転効率向上（負荷軽減）を実現しました。今後も、より快適な店内環境の維持と脱炭素社会への貢献に努めてまいります。



拠点設備の刷新による「職場環境改善」と「省エネ」の同時実現

新港店（工場）および東金店において、空調機器を最新モデルへと更新いたしました。

【背景と課題】両拠点では設置から20年が経過した旧型機器を使用しており、故障頻度の増加や空調能力の低下が課題となっていました。これにより、夏場・冬場の職場環境の悪化や、エネルギー効率の低下に伴う光熱費の増大が懸念されていました。

【改善の取り組み】今回の導入にあたっては、メーカー協力のもと詳細な「気流調査」を実施。その結果に基づき、冷暖房の死角をなくすため室内機を増設。配置の最適化を図ることで、空間全体の空調能力を大幅に高めました。

【導入の効果】最新機器への刷新により、作業環境の快適性が飛躍的に向上しました。また、最新の省エネ技術により、空調性能を強化しながらも、電力消費量の大幅な削減（エネルギー効率の向上）を実現しています。

千葉スバルは、気候変動への適応と環境負荷低減を重要な経営課題と捉え、今後も店舗設備の最適化や防災体制の強化を継続し、お客様と従業員の安全を守るとともに、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

6-2. 社会貢献活動

千葉県内の地域密着型企业として、社会貢献や環境活動への取り組みを実施いたしました。



—地域の子どもの未来を、千葉スバルと共に—

【教育・職業体験】子どもジョブパーク

2025年2月9日には、日頃からビーチクリーン活動で連携している横芝光町にて**「子どもジョブパーク2025」**に出展いたしました。昨年に引き続き実施した「ちびこメカニック体験」では、多くの子どもたちに整備士の仕事の魅力を伝え、地元で働くことへの興味を育むきっかけを創出しました。

【福祉・自立支援】響きの森学園 支援プロジェクト

2025年1月より児童養護施設**「千葉みらい 響の杜学園」の支援プロジェクト**を始動いたしました。社会的養護を必要とする子どもたちが、環境に左右されず自由に未来を選択できるよう、毎月の支援金提供に加え、イベントへの招待やボランティア等の交流活動を継続してまいります。あわせて、弊社の各イベント会場には募金箱を設置し、お客様と共に子どもたちの成長を支える「支援の輪」を広げる取り組みも開始いたしました。



—地域社会の未来と「いのち」を守る千葉スバルの取り組み—

千葉県の安全な交通環境を築くため、「交通事故ゼロDAY」を新港店からスタートさせ合計6店舗で開催いたしました。2030年に死亡交通事故ゼロを目指すSUBARUの姿勢を体現すべく、JAF（日本自動車連盟）協力のもと、冬道の危険な「ブラックアイスバーン」に関する講話や、SUBARU車の高い安全性能を実証するブリクラッシュ体験を実施。死亡交通事故という社会課題に対し、千葉スバルとして取り組みを進めていきます。

～海と山を守る、千葉スバルの清掃活動～

① 屋形海岸 毎月定例ビーチクリーン

千葉県の美しい海岸線を維持するため、横芝光町の屋形海岸を中心に定期的な清掃を今年も実施いたしました。

② 片瀬西浜海岸 4社合同ビーチクリーン

「一つのいのち」を共有するスバルグループの連携強化を目的に、県境を越えた大規模な清掃を実施しました。

【SUBARU、東京スバル、神奈川スバル、千葉スバルの4社合同開催】

③ 袖ヶ浦里山保全プロジェクト

歴史ある里山「かまくら街道」を地元「里山を歩く会」の皆様と共に保全する活動を行いました。

除草や剪定作業などをメインに、近隣畑でじゃがいもかぼちゃの収穫を行ってきました。



7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規 (遵守評価 2024.6.30)

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出 (自動車自動洗浄装置等)	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、年1回の水質検査及び清掃 3-4回の保守点検の実施	○
下水道法	排水施設の設置義務、特定施設の届出	○
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	○
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、廃棄物処理業者との委託契約、 廃棄物の表示・保管管理、 電子マニフェストの集計・報告	○
騒音規制法	特定施設の届出 (コンプレッサー等)	○
振動規制法	特定施設の届出 (コンプレッサー等)	○
化管法 (PRTR法)	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、 基準値以上の取扱量の場合に行政に報告 (少量の為不要)	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
自動車NOx、PM法	自動車排出NOx及びPM排出抑制に必要な措置、届出	○
以下は千葉県、各自治体の条例		
千葉県及び各市環境保全条例施行規則	特定施設「圧縮機」の規制対象出力 (上乗せ条例)	○
千葉県ディーゼル条例	特定自動車の粒子状物質減少装置の装着	○

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

千葉スバルは2024年度も地域貢献と環境保全を目的とした活動を、昨年度より株式会社SUBARU主導でスタートした「一つのいのちプロジェクト」という名称に変更して、より積極的に規模を拡大して推進しました。

(①清掃活動) 毎月恒例の「九十九里浜屋形海岸ビーチクリーン」に加えてや、2024年10月に神奈川県片瀬西浜海岸で行われた「全日本ライフセービング選手権」に合わせた海岸清掃に参加しました。

(②車両貸与) 水辺の事故ゼロを目指し千葉県ライフセービング協会へAED搭載車両を以前から貸与していましたが、その活動をきっかけに茨城県ライフセービング協会へも貸与を行いました。

(③地域貢献) 勝浦市の移住者支援活動を応援する目的で移住者の方にも車両貸与を拡大しました。

その他店舗においては、新港店や成田店等で「交通事故ゼロDAY」を開催し、交通安全啓発と周辺清掃を行うなど、地域に根ざした活動を継続しました。このように、清掃や環境面のみならず、社会課題への支援などその取り組みを拡大や変化できた年と思えます。

9. 経営におけるチャンスと課題

自動車業界の電動化シフトは、ハードウェアによる差別化を困難にし、メーカー間の性能差が縮小する「コモディティ化」を加速させています。こうした中、企業が取り組む社会貢献活動や安全啓発活動は、ブランド価値を再定義し、新たな顧客層を開拓する重要な戦略となります。

これらの活動は、次世代を担う優秀な人材の採用力を高めるだけでなく、従業員の誇り (エンゲージメント) を向上させ、中長期的には店舗のサービス品質の底上げに直結します。

今後の課題は、活動の「定量化」と「継続性」の両立です。単なるボランティアに留めず、新車販売や在庫数といった実利に結びつけるためのKPI設計が不可欠です。あわせて、現場スタッフの負担を抑えつつ、通常業務と社会活動が相乗効果 (シナジー) を生む仕組みを構築することが、持続可能な成長への鍵となります。

10. 次年度以降の環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量の少ない再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(2) 環境経営目標

項目	年度	単位	2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値	達成手段
			※店舗ごとに 設定した 目標合計値	(④目標は 個別設定)	(2025年度終了 後に2025年度 基準で目標設定 予定) (現時点では 2025年度目標 値比1%削減) (④目標は 個別設定)	
① 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電気使用量	kWh	2,821,015	2,792,805	2,764,877	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入（LED化等） 3) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月) 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化
	CO2排出量	kg-CO2	0	0	0	
	ガソリン	L	88,873	87,984	87,104	
	CO2排出量	kg-CO2	206,185	204,123	202,082	
	灯油	L				
	CO2排出量	kg-CO2				
	軽油	L	41,665	41,249	40,836	
CO2排出量	kg-CO2	107,497	106,422	105,357		
LPG	kg	16,945	16,776	16,608	4) 冷暖房の室温管理（都市ガス） 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用 (都市ガス、LPG) 6) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月)	
CO2排出量	kg-CO2	50,836	27,009	26,739		
都市ガス	m ³	216,342	214,179	212,037		
CO2排出量	kg-CO2	467,299	477,618	472,842		
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	831,816	815,172	807,020	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化 3) 結果分析方法や改善活動の見直し	
②水使用量の削減	m ³	15,970	15,810	15,652	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化	
③産業廃棄物排出量の削減	t	398	394	390	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 電子マニフェストによる日々の実績管理 3) 不必要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化 5) 特別管理産業廃棄物の適切な管理及び処理	
④ 環 境 業 配 に お け る 推 進	a) 車検カバー率	%	80%	80%	80%	1) 6か月毎の点検入庫促進活動の強化 2) 環境性能の高い車種への代替提案 3) 環境配慮した良質な整備メニューの提供
	b) IoT販売促進 ※新車装着含まず	本数	16,020	20,000	20,000	1) 点検入庫機会を活用した 付加価値提案（エコタイヤ）
	c) e-BOXER搭載車 及びEVの販売促進	台数	1,968	1,810	2,000	1) 環境性能エンジン『e-BOXER』 電気自動車『ソルテラ』の販売促進により環境負荷削減

※化学物質は維持管理を実施している。

【CO2排出係数/調整後係数】

【電気】0kg-CO2/kWh（プレミアムゼロプラン）2019年度より導入

【ガソリン】2.32 kg-CO2/kL・【灯油】2.49 kg-CO2

【軽油】2.58 kg-CO2/L

【LPG】1.61 kg-CO2/kg・【都市ガス】2.23 kg CO2/m³

※排出係数は基準年度と同係数で統一

【次年度以降の目標】

※今後の店舗拡充による増加分は加味せず。

※対基準年：2024年度→1%減、対基準年：2025年度→2%減